

令和５年度 第６回 流山市福祉施策審議会会議録

１ 日時 令和５年１２月１８日（月）
午前１０時００分～１１時３０分

２ 場所 ケアセンター ４階第１・第２研修室

３ 出席委員

鎌田会長 中職務代理者 石幡委員 小野寺委員 石渡委員 平井委員
小林委員 南委員 山本委員 東ヶ崎委員 萩原委員 福山委員
久富委員 中野委員

４ 欠席委員

肥田委員 中久木委員 鈴木委員 小熊委員

５ 出席職員

伊原健康福祉部長 宮澤健康福祉部次長兼障害者支援課長
池田社会福祉課長 木村高齢者支援課長 橋本介護支援課長
平尾児童発達支援センター所長 渡邊健康増進課長
斉藤防災危機管理課長
防災危機管理課
中野課長補佐

事務局（社会福祉課健康福祉政策室）

田村健康福祉政策室長 張替主任主査 加藤主査保健師 菊池主事

６ 傍聴者

市民３名

その他の参加者 手話通訳者２名

７ 委嘱式

（司会）

本日はお忙しい中、令和５年度流山市福祉施策審議会委員の委嘱式及び第６回流山市福祉施策審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。
式次第に沿って、委嘱式及び第６回福祉施策審議会を進めさせていただきます。
はじめに、福祉施策審議会委員の委嘱式を行います。

【井崎市長が順番に委嘱状を交付】

(司会)

続きまして、会長及び会長職務代理者の選出を行います。

流山市附属機関に関する条例第5条第1項の規定に基づき、会長が会議の議長になることになっておりますが、委員の改選に伴い会長が不在ですので、健康福祉部長の伊原が仮議長を務めさせていただきます。

(仮議長：伊原健康福祉部長)

それでは、仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
会長及び会長職務代理者の選出についてですが、会長につきましては附属機関に関する条例第3条第1項により、「会長は委員の互選によって定める」となっております。いかがでしょうか。

【鎌田委員の推薦あり。他の委員からも異議なしの声】

(仮議長)

挙手全員で「鎌田委員」を会長とすることに決定いたしました。

鎌田委員、よろしくお願いいたします。議長を交代します。

【鎌田会長挨拶】

皆様、おはようございます。NPO法人流山ユー・アイネットの副代表をしております、鎌田洋子と申します。流山市のボランティア団体を代表して、この審議会に参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

ただいま会長の職にご推薦いただきましたので、これをお受けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

福祉政策審議会の会長職を務めさせていただくことは、大変名誉なことであり、また大きな責任をお引き受けすることでもあると自覚しております。

委員の皆様が、今後の流山市の福祉のあり方について十分議論が尽くせるよう、緊張感を持って、スムーズな議事進行に努めて参ります。

このたびは、流山市避難行動要支援者避難支援計画の改定について、市長から諮問をいただく予定となっております。

私たち自身は、いただいた資料や事務局の説明をよく理解した上で、議論を深め、最後には答申書を作成して、市長の諮問にお答えするのが役目となっており、限られた時間ではございますが、丁寧な議論を尽くし、市民の皆様にご納得いただける答申の作成を目指して参りましょう。

本日、初めてご出席の委員の方々もいらっしゃいますが、どうぞ遠慮なくご発言をしていただきたいと思います。

(鎌田会長)

それでは、早速ではございますが議事進行を務めさせていただきます。

職務代理者についてですが、附属機関に関する条例第3条第4項の規定により、「副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故あるとき又は欠けたときは、会長があらかじめ指定する者が会長の職務を代理する」となっています。ご意見・ご提案ありますでしょうか。

【委員より「会長一任」の声あり】

(鎌田会長)

それでは大変恐縮でございますが私からご指名をさせていただきますが、よろしいでしょうか。中委員に職務代理者をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員より「異議なし」の声あり】

(鎌田会長)

異議なしとのご発声がありましたが、中委員、よろしいでしょうか。

(中委員)

ご指名でございますのでお受けいたします。よろしくお願いします。

(鎌田会長)

中委員、よろしくお願いします。

8 諮問

(司会)

続いて、市長から「流山市避難行動要支援者避難支援計画の改定について」諮問いたします。

(井崎市長)

それでは、諮問書を読み上げます。

【諮問書読み上げ及び渡し】

(司会)

井崎市長より御挨拶申し上げます。市長よろしくお願いします。

(井崎市長)

流山市福祉施策審議会の委員をお引き受けいただきありがとうございます。

前回の審議会では4つの計画をご審議いただきました。11月21日にパブリックコメントを実施し、12月20日に終了となります。

今回は、流山市避難行動要支援者支援計画を諮問しました。上位計画の変更に基づき見直すものですが、流山市では支え合い活動を推進しており、実際にお困りの要支援者について、各自治会をベースに避難していただくために、名簿を提供するという事業を行っています。

お元気であった高齢者の方が3年も5年も経つと状況が変わってきます。これに対して、漏れがないよう、またいざというときに1人でも多くの方が避難できるように、計画を見直していきたいと思っていますので、それぞれの立場から忌憚のないご意見をお願いいたします。

参考情報ですが、流山インター付近に大きな物流センターがあります。令和3年から、流山市と物流センターの運営主体であるG L P、佐川急便と三井食品で、災害時の食料物資の提供と運送業務について協定を締結しました。災害時には空輸により食料が国や市外から1週間でキッコーマンアリーナに届くこととなっていますが、三者の協力で、まずは最初の1週間で三井食品の食料を提供していただくことになり、また、避難所まで佐川急便がお送りいただくということになりました。1週間経過後は、市外からの物資も佐川急便が送っていただけます。盤石な心強い体制ができました。

大きな安心材料ではありますが、どういう災害かによっても避難状況が変わってきます。皆様には引き続き、3日から1週間の備蓄は確保していただきたいと思います。

このように心強い体制ができましたので、そこへ避難するまでの方々をどうしていくかということについてご議論いただき、答申をしていただければと思います。

(司会)

市長は公務の都合によりここで退席させていただきます。【市長退室】

(鎌田会長)

会議に入る前に、委員の皆様にご報告いたします。本日の出席委員は14名です。委員の半数以上の出席がありますので、附属機関に関する条例第5条第2項の規定に基づきまして、会議は成立していることをご報告します。

なお、市民参加条例等の規定により、審議会は公開となっております。

本日は3名の方から、本審議会を傍聴したい旨の申し出がありましたので、会議の傍聴についてご了承願います。

それでは、傍聴者の入室をお願いします。

【傍聴者入室】

(鎌田会長)

続きまして、委員の皆様のご紹介と、事務局より説明があります。

(司会)

皆様のご紹介の前に、お願いがあります。今後の審議会では手話通訳が入りますので、ご発言にあたって、3点ご協力お願いいたします。

①会議において発言される場合は、挙手をされてからお願いします。

②発言の際は、特別ゆっくり話す必要はありませんが、明確にお話しいただくようお願いします。

③発言内容は、簡潔明瞭にさせていただきますようお願いします。

それでは、名簿順に委員のご紹介をさせていただきます。

【委員紹介】

(鎌田会長)

つづいて、健康福祉部の皆様の自己紹介をお願いします。

【職員紹介】

9 議題

(鎌田会長)

これより議事に移りたいと思います。本日の議題について、事務局から説明をお願いします。

(司会)

本日の議案は1件です。本日の議案は「流山市避難行動要支援者避難支援計画の改定について」です。議事録作成のため、録音させて頂くことをご了解願います。配布資料について確認いたします。

【配布資料確認】

(鎌田会長)

それでは、議題1についてご説明願います。

【説明】

(池田社会福祉課長・田村健康福祉政策室長)

(1-1)「避難行動要支援者支援計画の改定について」に基づき説明

(鎌田会長)

それでは、只今の説明について、ご意見やご質問はありますでしょうか。

(久富委員)

名簿は協定を締結した自治会に提供するという事で、令和5年12月現在では125自治会と協定締結とありますが、こちらは市全体の何%でしょうか。市全体では自治会はいくつあるのでしょうか。

(池田社会福祉課長)

181自治会であったと記憶しています。

(久富委員)

大体3分の2ということですね。

(南委員)

資料番号1-1の3で、避難行動要支援者と地域支え合い活動について、高齢者や障害者などとありますが、例えば外国人などの対応についてお教えいただきたいです。

(田村健康福祉政策室長)

外国人等については、国の指針の中では、要配慮者と位置付けられています。避難行動要支援者よりもう少し広い概念であり、妊産婦なども含まれています。必ずしも避難行動要支援者とは位置付けられていない部分で、要配慮者という違う用語を使います。

(小林委員)

4pの骨子で、第4章で災害時に備えた活動とありますが、第1避難所、第2避難所というのはどこに関わってくるところでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

一般的な避難所等については、上位計画の地域防災計画に書かれています。我々の計画は、福祉的な観点から記載します。一般的な避難所で避難生活を送ることが困難な方向けに、福祉避難所として老人ホームや既存の避難所の中に一室を設けて開設するなど、福祉避難所等についてはこちらで掲載します。

(小林委員)

どこに福祉避難所を設置するか決まっているのでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

高齢者施設等に設置し、これは地域防災計画で決まっています。

(東ヶ崎委員)

個別避難計画について、介護保険は介護支援専門員が作成というところですが、障害福祉サービスの場合は相談支援専門員が作成しない、セルフプランが多いかと思います。その方々の計画作成という部分についてお聞かせください。

(田村健康福祉政策室長)

個別避難計画は、まずは本人や家族で作成していただきたいと考えています。家族での作成が困難であって、福祉専門職が付いている方については、福祉専門職にご尽力いただくよう考えています。福祉専門職がおらず本人や家族での作成が難しい方は、自治会や民生委員の方々などに相談していただき、その支援でもって作成することを考えています。

(平井委員)

民生委員が現在この救急情報カードを作成しています。黄色いところに本人が記載し、筒に入れていただいて、2枚目を社会福祉課へ提出し、コピーしたものを民生委員が持っていますが、膨大な量です。私の地区でも今50人以上の用紙を持っています。

また、欠員のところは会長が引き受けることになっていて、一人欠員がおりこちらで50名程度いますので回り切れていないところです。この状況で、これを基に個別避難計画を載せるおつもりでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

現在の緊急情報カードは、A4の1枚にまとまっており、病歴や緊急時連絡先などありますが、これを個別避難計画とするためには、避難支援等実施者や情報共有の同意など、不可欠な項目がありますので、救急情報カードの様式を更新して、新しい様式を作る予定です。

(平井委員)

今は膨大な量ですが、全ての方が作成するのではなく、福祉避難所へ行かれるような、特別な配慮の必要な方のみ使うということでしょうか。

（田村健康福祉政策室長）

はい。ただ75歳以上のみ世帯の方々などすると、避難能力に着目しない基準となってしまいます。現在救急情報カードを作成している方でも、自力で避難できる方も多く含まれていると思います。個別避難計画に関しては、要介護度3等の避難能力に着目して作成することとなっていますので、自力で避難が困難な方に絞って作成することになっています。

（平井委員）

今は民生委員が作成していますが、私たちだけがやるのではなく、福祉専門職等が入っていただいて作っていくということでしょうか。

（田村健康福祉政策室長）

おっしゃる通りです。詳細はまだ決まっていますが、福祉専門職、あるいは自治会の皆様の協力を得ながら、また民生委員の方々の協力もいただきながら作っていく形です。

（平井委員）

協力するのはやぶさかではありませんが、全てが民生委員にかぶさってくると大変だなと思って質問しました。よろしくお願いいたします。

（久富委員）

家族に障害を持つものがいて、社会福祉課から要支援者になるかどうかという案内が来るところです。今は、両親が現役世代であるため、支え合い活動対象者名簿には記載しないと判断しています。

今回のこの計画とは違うのかもしれませんが、発達障害や自閉症のお子さんなど、両親がいるため基本的には自分たちで支援しますということで、一般の避難所に行くことを想定されているかと思いますが、一般の避難所では苦勞なさと思います。そういった方が例えば福祉避難所を利用したいという場合、どうなるのでしょうか。

（田村健康福祉政策室長）

この避難行動要支援者名簿や個別避難計画は、特別に福祉避難所と直接リンクしているものではなく、実際には一般避難所に行ったのち、福祉避難所への調整になるかと思います。実際に避難してから、障害や要介護度の重い方々も含め、調整になろうかと思います。要支援者だから有利というものではありません。

（南委員）

先日千葉県の災害福祉支援チーム、DMA Tの研修を受けましたが、避難所で一番命を守って把握しているのは保健師だと感じました。

ぜひ、避難所に状況を把握できる保健師を配置していただきたい。

（小野寺委員）

障害者に関しては、支援が必要な方として大体当てはまると思います。自分の経験をお話しすると、聞こえないことでヒヤッとしたことがあります。ドアを開けたら隣が火事で消防車が駆け付けていたということがありました。

また、自宅マンションの下の階で警報機が鳴ったということがありました。私は留守にしており、自治会の方がメールをくださったので知り得たのですが。

私たちの立場として、書くのが苦手な方もいますし、情報の取得経路が一般的なものでは難しく、自治会からの支援が必ず必要になります。今後このような制度を作るには、障害者にもわかりやすい、障害別に対応したもの、障害者に特化したような個別な取り組みも考えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

（田村健康福祉政策室長）

いただいたご意見を踏まえ、計画に反映させたいと思います。

（石渡委員）

個人情報の管理という面から、難しい面があるかと感じます。いろんな形で民生委員、市社協、警察、消防等の関係団体の連携が密に必要というのは十分わかりますが、本人が何を求めているのかをとらえないといけないと思います。

以前保護司をやっていましたが、自分の地域は嫌なので、隣の地域にお願いする人もいました。個人の意思がどうなのか、ということを掴んでおくことが必要だと思います。

（田村健康福祉政策室長）

国の枠組みとしては、個別避難計画の情報提供を受けた人は守秘義務が課せられますので、みだりにその避難に必要な範囲外で、情報を漏らしてはならないとされています。市としても、情報提供した相手に、情報を複写しないよう、避難支援に必要な場合以外に情報を漏らさないような措置を求めることとなります。加えて、情報共有に当たっては、本人と避難支援等実施者の同意が必要になります。同意しない場合は関係機関に共有されないというストッパーもあるということでご理解いただければと思います。

(鎌田会長)

援助者の方は市内の方でなくともよいでしょうか。

(田村健康福祉政策室長)

避難支援等実施者は市内の方でなくとも大丈夫です。

(福山委員)

私は流山市へ引っ越してきましたが、隣近所が地域に出てこないですね。高齢者や障害者という区別なく、個人情報というのが災いし、隣近所の情報が全くありません。孤立していますので、災害時はどうしようかと思います。困ったときだけ友達という顔をしていると思いますが、また終わって1年もしたら知らん顔。回覧板だって顔を合わせない状況です。

(田村健康福祉政策室長)

自治会など地域の方々の支援が必要というのは間違いなのですが、地域の支援を得るために、普段から全く付き合いがない方が支援するというのはおっしゃる通り、大変難しいものだと思います。支援を受ける方の自助努力としても、普段から顔の見える関係を作っていただくことが、災害時にも同じようにつながると考えています。

(萩原委員)

自助努力というのは厳しいと思います。顔を合わせない方もいるし、餅つき大会などの地域での活動もしていますが、出てこない方や、自治会活動を拒否する方が多いです。なるべく接触しようとしても難しいという状況がありますので、基本方針は賛成ですが、根本的な問題があり、実際には難しいと思います。

自治会そのものの存続が難しい状況がある中、市役所もどのように地域の問題に取り組んでいくか、組み上げていくか、という問題が大きいのではないかと感じます。

基本は本当に賛成ですが、現実はまだ厳しいということです。こういったことに取り組んだ中で答申が出るのが良いなという感じがしていて、地域の方に伝えるにしても、市がそこまで頑張っているということを伝えていきたいと思います。

(伊原健康福祉部長)

率直なご意見ありがとうございます。これが現実であると思います。審議の

回数は限られていますが、この計画は、その実情もテーブルに挙げていただき、そのような方にどのように情報を伝えて、必要とっていただくような表現や方法といったことも考える必要があると思います。

福祉専門職が付いていない方の問題もありますが、地域にどうやって知ってもらい、繋がってみんなで助かるかという必要性や方法を議論する必要があると思います。どれだけ血の通ったものを作っていけるかというところを、一緒に考えたいと思っています。

(久富委員)

伊原部長のご回答があり、その通りだなと思います。

今回の計画は、基本的には申し込んだ人が名簿に記載され、その人を支援するという計画だと思います。これは国や上位計画等がそうなっているということかもしれませんが、基本的には一番手を上げない人が、支援が必要であったりするところだと思います。自治会でも、回覧板を回さないでくださいという家がとても孤立しているなというのを感じています。意識が高く、きちんと地域と繋がっている人だけが助かる計画ではなく、アウトリーチが必要な人たちに届くような計画、そもそもそういった人をどうするかということも想定して計画を作っていくことが大事かと思います。

(田村健康福祉政策室長)

個別避難計画は作るのに同意が必要ということではあったのですが、説明は丁寧に行う必要があります。最初同意が得られない方は、計画は作れませんが、引き続き同意が得られるように、様々な機会を捉えて啓発する努力は怠りなくやっていきたいと考えております。

(鎌田会長)

予定していた1時間半に近づいています。本日は初めて出席される委員の方もたくさんいらっしゃった上、従来事前に資料を配布してご議論いただくというものであったところ、いきなりご議論いただくという形でしたが、大変活発なご議論をいただきまして、内容に踏み込んだものとなったかと思います。新しく出席された方、何か一言いかがでしょうか。

(山本委員)

避難所の話ですが、市として福祉避難所の対象になる人数や福祉避難所の数は把握できているのかが気になります。最初は避難所、その次に福祉避難所を作るということかと思うのですが、高齢者施設はそこに支援しなければいけな

い方が既にいるところ、福祉避難所を作るというのは結構難しい問題なのではないかと思います。

（田村健康福祉政策室長）

福祉避難所を必要とする人数については、災害の程度や規模などによるため、残念ながらそういった推計は持ち合わせていません。福祉避難所の数については、高齢者施設等と市が協定を結んでいまして、既に20数か所と協定を締結していると記憶しています。おっしゃる通り、従来の入居者がいるため、協定があるからと言って何人かは入れると保障されるものではないと思っています。市役所の災害時の体制の中の一つとして、救援庶務班が、災害が起こってから移送等の調整することになるかと思っています。

（中野委員）

初めは顔の見える関係づくりが大事という話があり、具体的にどういふことかと聞こうと思っていました。逆に、この関係を作るにはどうするのかという例を申しますと、今は核家族世帯が多く、近所付き合いが難しいです。まず関係を作るのは子ども同士であり、大人同士の付き合いを始めるというのは難しく、子どもによって親が引っ張り出されるというものだと思います。ここを行政にお願いするのは難しいのではないか、まずは自分たちではないかと思っています。最初は何かマニュアルがあればいいと思いました。

個人情報というのは非常に難しい問題とは思いますが、実際に聞きたいことを相手に直接聞いて、その情報を得れば別にそれでなんの問題もない、それを行政に頼って、では顔の見える関係というのは難しいのではないかと思います。

（伊原健康福祉部長）

いろんな側面があると思いますが、これがいずれも現実だと思います。これを行政だけで考えるのではなく、どうやって災害時に命をみんなで守り合うのか、この計画にどう落とし込んでいくかという議論ができればよいと思います。

確かに個人が地域と繋がるというのは難しいところですが、行政が実行するのも容易ではないということも確かだと思いますので、方法について議論したうえで、一つの結論にもっていければと思います。ただ、計画ができてでもそれで万全ではないと思います。実際にやっていきながら、足りないところをどうするか、まずは何を道しるべとするか、皆様と共有したいと思っています。

（石幡委員）

仲間がいない、孤立している、という話が出たところですが、老人クラブの

話をしたいと思います。

老人クラブというのは、仲間づくりと健康寿命を延ばすということで活動しています。市内180の自治会のうち、56しかクラブがないので、市と連携して老人クラブのない自治会への設置に取り組もうとしています。

地域に1つ、30人に1つを目指しています。

市民それぞれ違うと思いますが、趣味の仲間を増やし、繋がれば、災害や緊急時の活動にもつながります。こういった活動をすることで、健康寿命も延びていきます。一つの解消の方法として、老人クラブを活用していただければと思います。

（鎌田会長）

今日は1回目にも関わらず、議論が大変深まったかなと考えています。時間のためいったん終了とさせていただきますが、最後に何か委員の方からありますでしょうか。

（小野寺委員）

少しお時間いただきます。福祉避難所について、高齢者に対しては高齢者施設を使用する、障害者に対してはまだどこの施設を使うのかというのが、私はあまりはっきりわかりません。災害が起きてから調整するということですが、どの程度調整に時間がかかるのか、防災のマニュアルの中にでも、障害者の対応について考えていただきたいと思います。

（田村健康福祉政策室長）

協定を結んでいるのは主に高齢者施設であります。福祉避難所を必要とする方の人数や、施設の空き状況などにより、調整の時間は変わってくるかと思います。迅速な福祉避難所の確保が必要であるということは認識しています。また、高齢者施設の福祉避難所を障害者の方もご利用いただけます。

（小野寺委員）

この辺りが把握していなかったもので、はっきりと高齢者施設だけでなく、福祉避難所には高齢者と障害者も利用できるということも明確に教えていただければと思いました。

（鎌田会長）

それでは今日の審議についてはいったん終了とさせていただきます。その他ですが、事務局から何かございますか。

(司会)

次回、第7回の福祉施策審議会の開催日時と場所の予定は次のとおりです。
令和6年1月30日(火) 午後2時～
会場が市役所第1庁舎4階 委員会室です。

配付した資料については、次回もお持ち頂きますようお願いいたします。お忙しい中とは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(鎌田会長)

聞きたかったことなどございましたら、ご意見を先に提出していただくことも可能です。もちろん、次回の議論の場でもたくさんご発言いただきたいと思います。

本日の議事は、以上をもちまして終了いたします。御協力ありがとうございました。

(司会)

鎌田会長には、議事進行ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第6回流山市福祉施策審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。